

## 東北被災地訪問・復興支援プロジェクト 2017 参加者募集

2011年3月に発生した東北地方太平洋沖地震から5年が経過しましたが、被災地は今もなおその傷跡を残し、困難な生活を強いられています。本校では2012年度より毎年本校生徒を東北被災地に派遣し、ボランティア活動に従事し取材した内容を、全校集会やwebページ等での報告をし、大学等との報告会にも参加してきました。この活動の参加者からユネスコ協会スピーチコンテスト全国大会出場者（優秀賞受賞）、全国模擬国連大会出場、韓国城南市との交流派遣、日中韓ユネスコ交流会の日本代表派遣者など、様々な方面で活躍し、日本ユネスコ協会よりボランティア活動認定表彰を受ける生徒が出ています。

(本プロジェクトは、日本ユネスコ協会のボランティア活動認定対象企画です)

平成29年度も茨木市内の高校を中心に生徒80名程度を派遣するプロジェクトを計画しています。被災地を訪れると、「いかなくってはわからない。そしてそれ以上にそのことを伝えることが大切だ」とみな言います。本校からも生徒を派遣し、活動を通して、現地を知り、そして高校生同士で交流し、貴重な経験を持ち帰ってほしいと考えています。まず参加してみること・・・これが最も大切です。当プロジェクト参加がユネスコ関係の国際交流プログラムの要件になっていることもあり、参加校・希望者が増えています。4月時点で、他校の募集によって、定員の半分が抑えられている状況ですが、春日丘では優先して座席を確保します。興味のある人はこの機会に是非参加してください。

1. 事前・事後研修を含む被災地訪問（気仙沼）および交流（ボランティア活動も含む）企画
2. 日時：2017年7月14日夕方～18日早朝（夏休み前の連休中に活動するため3年生も可）
3. 内容：被災地の視察、気仙沼市大島での復興ボランティア活動、植樹活動、気仙沼高校との交流等が計画されています。

※事前研修（昨年度は阿倍野防災記念館・毎日新聞社にて研修を行いました）

4. 費用：**29,000円程度**（食費・保険含む、事前活動等への参加状況等によって異なります）

5. 引率者：本校教員および他校教員
6. 募集人数：若干名（応募者多数の場合は選考）
7. 応募方法：

①必要書類（応募用紙）：担当者まで用紙をもらいに来てください

（ア）書類配布期間：本日～（5月15日（月））

（イ）〆切：～5月16日（火）午後4時50分締切厳守

（ウ）提出先・担当者：大岡（LAN準備室）

②選考方法：課題作文と面接

（参考）訪問予定および春日丘高校の行事予定（今年は連休中に訪問します）

	被災地訪問予定	春日丘高校の行事予定
7月14日(金)	夕方7時ごろ出発	午前授業
15日(土)	陸前高田・鹿折地区・八瀬森	休業日
16日(日)	気仙沼大島・八瀬森	休業日
17日(月)	岩井崎・気仙沼高校・出発	国民の祝日
18日(火)	大阪6時ごろ着	午前授業

# 2016年度 東北プロジェクト 生徒発表資料より

## 貴重な植物を守る運動

### ・気仙沼での植樹ボランティア

活動二日目の17日、私たちは気仙沼・波路上原で、海辺の森をつくろう会の植樹活動を手伝うボランティアに参加しました。作業は大きく分けて、

①森作りのための苗植え

②土壌からの石の除去

③草刈り

の3つです。これらの作業にはそれぞれ大切な目的があります。まず①は、畑を潮風などから守るためです。今回植えたレッドロビン、潮風に強く、高く成長します。今後来るかもしれない震災のための、防波堤の役割も担っています。一人一株ずつ、丁寧に植えました。

また②は、堤防建設にあたって住処の浜辺をなくしてしまう、ハマナデシコなどの希少な植物の保護のために、移植地を作る目的でした。大きなごろんとした石から小石まで、みんなで協力して取り除きました。

③で草刈りをしたのは、森作りのために若木をたくさん植えてある土地だったのですが、セイタカアワダチソウなどの生命力の強い外来種の雑草がそれらの成長を妨げていました。なので、外来植物を重点的に、雑草をひたすら取り除きました。腰を曲げっぱなしのハードな作業でしたが、すっきりした野原を見たときは達成感がありました。



▲潮風に強いレッドロビンの木の苗植え



▲草花の移植のため、土壌から石を除去



▲広大な土地を延々と草刈り



▲全員で集合写真



▲海辺の森をつくろう会の皆さん  
ありがとうございました！

### ・波路上原の現在の様子（図解）



### ・感想

今回の活動で私が最初に感じたのは、津波が奪っていったのは人々の命だけではないということです。自然豊かだった気仙沼は、そのほとんどを波にさらわれ、今も更地の場所が多く残っています。今回の森作りは、たんに防災を目的にしているのではなく、もとの自然豊かな気仙沼を取り戻す目的でもありました。「復興は、ただ町並みを元の状態に戻すだけではなく、人々の生活を元通りにしてこそ達成される」。これが、今回の東北プロジェクトで私が学べたことです。今回植えた苗や、移植されるであろう希少な植物、たくさん若木が、無事に成長し東北を守る力になるころには、東北はさらに活性化されていると思います。しかし、地元の人々だけでは、完全な復興は難しいのも事実です。今回行った少しハードな作業などは、お年寄りだけではかなりきついと思います。東北は若者不足でも悩んでいます。私たち若い世代の協力が、今まさに必要とされていると思います。

## <支援先の大島>

現地に着いてはじめて活動した場所が大島でした。とても自然が豊かな場所でしたが、震災のときには、重油が流れ出して起こった気仙沼湾の火災が海を渡って大島にも燃え移りました。鎮火まで4日間もかかる火事の結果、もともと盛んであった牡蠣の養殖のいかに家や家を一度に失いました。養殖場の支援活動を行いました。

蒸し牡蠣をいただきました！

